



【陵山古墳】

4世紀後半築造の前方後円墳とされる

ここは前方部の前面に所在する拝所

[video](#)



標柱に「狭木寺間陵(さきのてらまのみささぎ)」と刻まれ、第11代垂仁天皇皇后の日葉酢媛命の陵に治定されている



お約束の宮内庁の御触書





垂仁天皇皇后日葉酢媛命  
狹木之寺間陵

一みだりに域内に吾入らぬこと

一魚鳥等を取らぬこと

一竹木等を切らぬこと

宮内庁

周濠が巡っている

[video](#)



そこで、右手を見たところ



同じく、左手を見たところ



前方部の左隅で、右手を見たところ/前方に拝所が見える



同じく、左手を見たところ

 [video](#)



左手(北方向)に回り込むと、括れ部の少し前方部よりと思われる辺りに造出しのような張り出しがあった/右手が前方部、左手は後円部 [video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



少し進んで、左手(北方向)を見たところ/右手が陵山古墳の墳丘、左手は石塚山古墳の墳丘

 video



更に進んで北方向を見たところ/同じく、右手が陵山古墳の墳丘、左手は石塚山古墳の墳丘

[video](#)



そこで、振り返って南方向を見たところ/左手が陵山古墳の墳丘、右手は石塚山古墳の墳丘/先に築造されていた陵山古墳の後円部の周濠が石塚山古墳のくびれ部に食い込んだ状況となっている



更に進んで北方向を見たところ/この辺りが陵山古墳の後円部の後ろ(右手)のようだ

[video](#)



そこで、右手を見たところ



更に右手(南方向)を見たところ/左手が陵山古墳の墳丘、右手は石塚山古墳の墳丘



【宝来山古墳】

4世紀半ば頃築造の前方後円墳とされる(4世紀前半から中頃ともされるようだ)  
周濠越しに見た宝来山古墳/左手前が前方部、右奥が後円部/手前に「垂仁天皇菅原伏見東陵」と刻まれた標柱が立っている

[video](#)



そこで、右手を見ると小島が浮かんでいる/これは周濠の南東部が後世に拡張され、外堤の一部が残されたものらしい(一説に田道間守の墓とも・・・)



前方部前面に所在する拝所

 video



ここにも「垂仁天皇菅原伏見東陵」と刻まれた標柱が立っている



右手に回り込み、括れ部辺りを見たところ/左手が前方部、右手は後円部

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



後円部を後ろから見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



【石塚山古墳】

4世紀後半築造の前方後円墳とされる(古墳時代前期末頃ともされるようだ)  
前方部前面に所在する拝所

[video](#)



「成務天皇狭城盾列池後陵」と刻まれた標柱が立っている



お約束の宮内庁の御触書



前方部の左隅を見たところ

[video](#)



そこで、右手を見たところ



同じく、左手(後円部方向)を見たところ



拝所の右手を見たところ/周濠を遮るように通路が後円部方向(北方向)に続いている

[video](#)



そこへ行って、振り返って拝所方向を見たところ

 video



では、通路を後円部方向(北方向)へ進んでみよう/左手が石塚山古墳の墳丘、右手は陵山古墳の墳丘

[video](#)



少し進んで、振り返って南方向を見たところ/右手が石塚山古墳の墳丘、左手は陵山古墳の墳丘/先に築造されていた陵山古墳の後円部の周濠が石塚山古墳のくびれ部に食い込んだ状況となっている

[video](#)



更に進んだところ/左手が石塚山古墳の墳丘、右手は陵山古墳の墳丘

 video



その先はこんな塩梅



【五社神古墳】  
ごさしこふん

4世紀末頃築造の前方後円墳とされる

ここを入れて行く/右手にお約束の宮内庁の御触書があった



「仲哀天皇后神功皇后狭城盾列池上陵」とある



拝所が見えて来た

 video



拝所

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



ここには「神功皇后狭城盾列池上陵」と刻まれた標柱が立っている



そこで、左手を見たところ



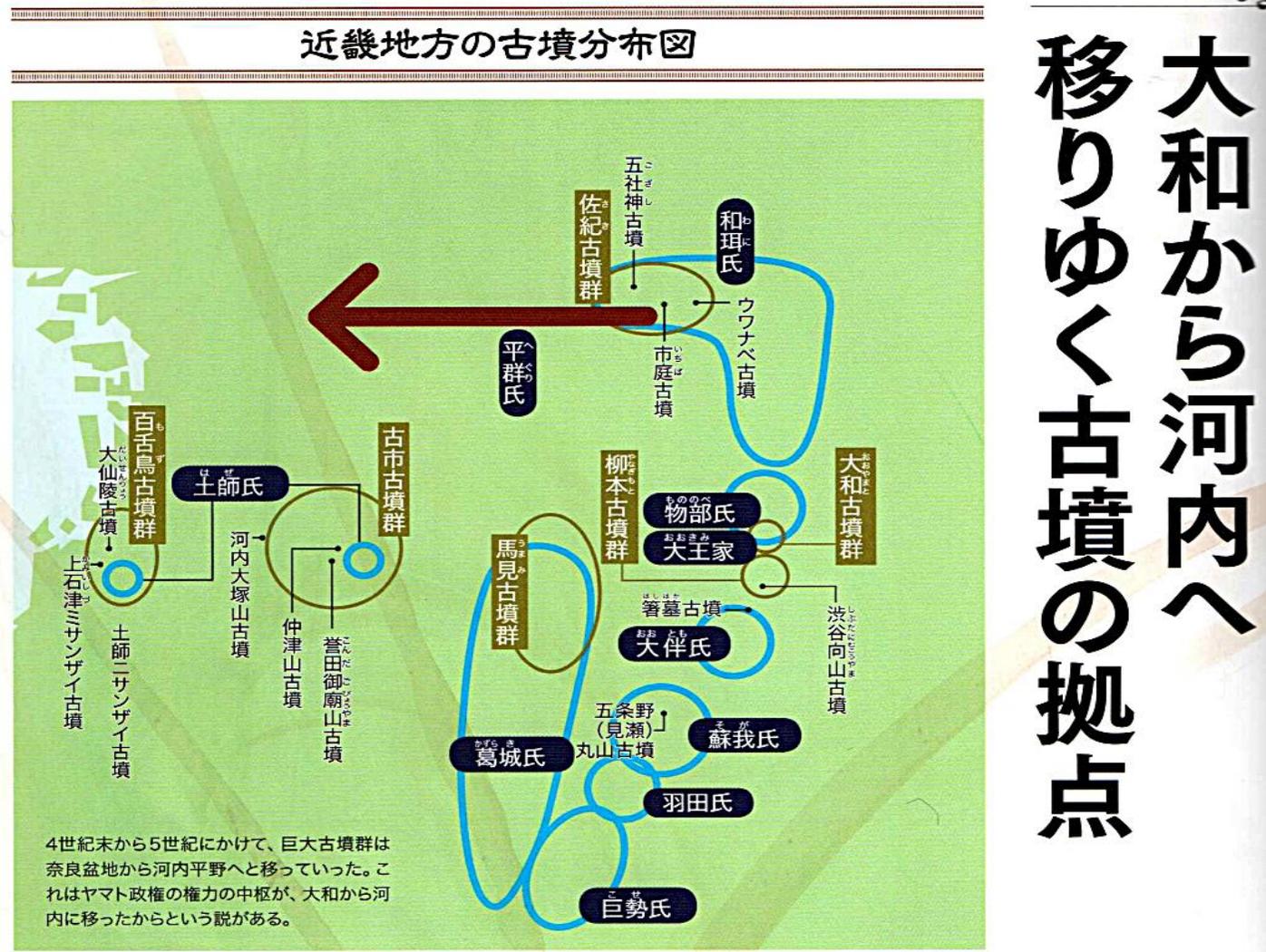
同じく、右手を見たところ

 video



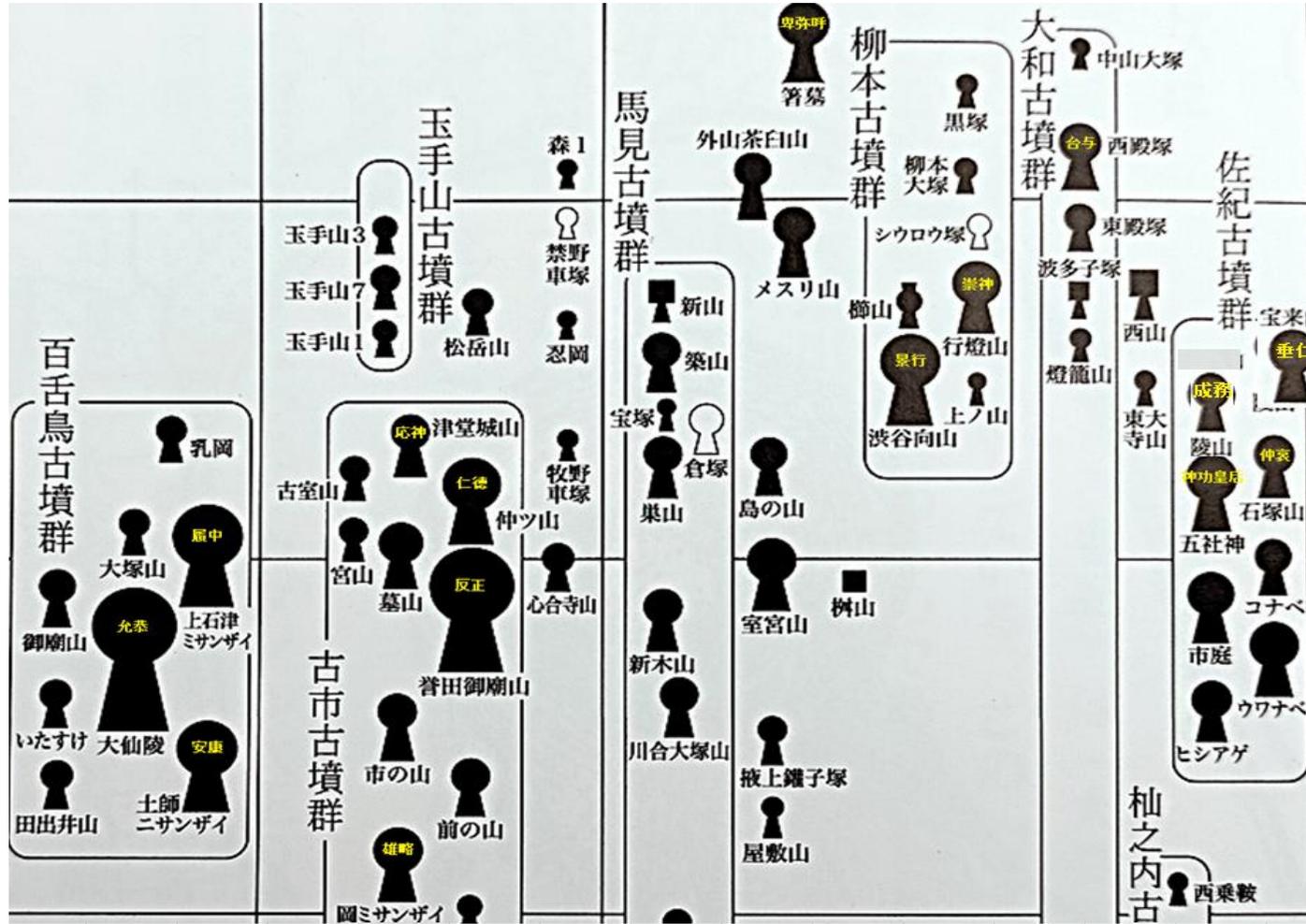
さて、以上は佐紀盾列古墳群の中でも大王墓と目される古墳であるが、記紀の大王(天皇)の系譜が正しいとするならば、それぞれの古墳がどの大王の墓なのかを想定してみたい

大王墓の造営地は大和(3~4世紀中頃)~奈良北西部(4世紀後半)~河内(5世紀)と時代に沿って移動していくという

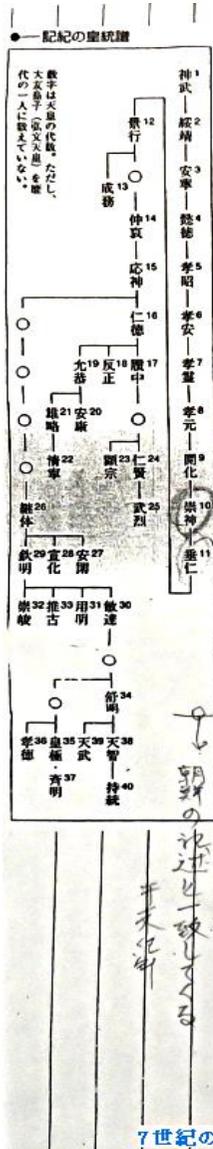


# 大和から河内へ 移りゆく古墳の拠点

どの古墳がどの大王(天皇)の墓かを想定した試案



畿内地方における大型古墳編年表/白石太一郎 より 一部切り取り、大王名追記及び宝来山古墳と陵山古墳の位置を入れ替え



崩年干支・在位・宝算の一覧表 ( )内は立太子又は生誕よりの計算

No.	天皇	日本紀崩年		古事記崩年		住吉大社神代記崩年		在位年数		宝算	
		干支	西暦	干支	西暦	干支	西暦	紀	記	紀	記
1	神武天皇	丙子	-585					76		127	137
2	綏靖天皇	壬子	-549					33		84	45
3	安寧天皇	庚寅	-511					38		57	4
4	懿德天皇	甲子	-477					34		(77)	45
5	孝昭天皇	戊子	-393					83		(114)	93
6	孝安天皇	庚午	-291					102		(137)	123
7	孝靈天皇	丙戌	-215					76		(128)	106
8	孝元天皇	癸未	-158					57		(116)	57
9	開化天皇	癸未	-98					60		115	63
10	崇神天皇	辛卯	-30	戊寅	258	戊寅	258	実在する可能性のある大王			
11	垂仁天皇	庚午	70			辛未	311	99		140	153
12	景行天皇	庚午	130					60		106	137
13	成務天皇	庚午	190	乙卯	355			60		(143)	95
14	仲哀天皇	庚辰	200	壬戌	362			9		107	52
	神功皇后	己丑	269					撰改 69		(98)	100
15	応神天皇	庚午	310	甲午	394			41		52	130
16	仁徳天皇	己亥	399	丁卯	427			87		(53)	83
17	履中天皇	乙巳	405	壬申	432	讚		6		70	64
18	反正天皇	庚戌	410	丁丑	437	珍		5		(77)	60
19	允恭天皇	癸巳	453	甲午	454	落		42			72
20	安康天皇	丙申	456			興		3			56
21	雄略天皇	己未	479	己巳	489	武		23		(62)	124
22	清寧天皇	甲子	484					5			
23	顕宗天皇	丁卯	487					3	8		38
24	仁賢天皇	戊寅	498					11			
25	武烈天皇	丙戌	506					8	8		
26	継体天皇	辛辰	531	丁未	527	確實に現在の天皇に繋がる大王					
27	安閑天皇	乙卯	535	乙卯	535			2		70	
28	宣化天皇	己未	539					4		73	
29	欽明天皇	辛卯	571					32			
30	敏達天皇	乙巳	585	甲辰	584			14	14		
31	用明天皇	丁未	587	丁未	587			2	3		
32	崇峻天皇	壬子	592	壬子	592			5	4		
33	推古天皇	戊子	628	戊子	628			36	37	{73}	{75}

傳承上の祖先神

7世紀の後半の時代には、崇神より前の大王についての事績は良く分らなかった！？

大東文化大学 平成28年春 古代史講座資料より 赤字・青字部分追記

日本書紀は時代の基準になるものとして、神功皇后を卑弥呼の時代にあて、ゆえに大王(天皇)の崩年干支が前倒しとなっているといわれ、どちらかという古事記の崩年干支の方が実態に近いと思われる

古事記・住吉大社神代記では崇神天皇の崩年干支は戊寅と口伝により傳承されていたようで、諸説あるがこの年は318年とするのが崇神天皇の墓とされる

行燈山古墳の築造年代などを勘案すると、最もしっくりいように思われる

なお、大王(天皇)の墓の造営のタイミングであるが、基本的には寿陵(生前に各地の大首長とのネットワークを具現化することが、前方後円墳という墓の大きな機能であったことから想定できる)であると思われる

崇神天皇は祭祀王(シャーマンとして崇められた王)と執政王(祭祀王を政治・軍事面で支える王)を兼ねた大王(天皇)であることを示すために、生前にそれまでの祭祀王の墓の特徴である前方部が撥型に開く墳形を採用した寿陵を自ら造営したのではないだろうか！

4世紀には大王墓と相似形の大首長の墓が見られる

なお、開化天皇以前を「傳承上の祖先神」としたのは、記紀が編纂された時代には崇神天皇より前の人物については良く分らなかったのではないと思われる

実在するとされる最初の大王(天皇)である崇神天皇の墓は行燈山古墳とされるが、その後を継いだ垂仁天皇の墓は大和の地には見られない

諸説あるが、垂仁天皇の墓は奈良(北西部、以下同様)の地の宝来山古墳ではないかとされる(最新の知見では宝来山古墳の築造年代は4世紀前半から中頃ともされ、すると景行天皇の墓とされる渋谷向山古墳の築造時期との間に入り、その可能性が高くなる)

なぜ、途中垂仁天皇の墓だけが和歌山の地ではなく奈良の地に造営されたのか、それは古墳の造営主体は天皇というよりも、天皇を支える大豪族(たとえば后を出した大豪族、和珥氏?)が担っていたことによるものではないだろうか

倭国全域がまとまって行く中で、和歌山の地には政権を支える実力集団が成長してくるのだが、それは後の畿内エリアに勢力を伸ばした主要な氏族であると思われる…つまり、垂仁天皇は奈良の地の氏族に支えられた大王(天皇)であり、その墓も造営主体の地に造営されたのではないだろうか(それは大王墓が大和の地から奈良の地へ移動する先駆けのことであつたとも考えられる…ちなみにその造営場所はいわゆる佐紀盾列古墳群とは少し離れている)ところで、佐紀盾列古墳群の大王墓と思われる古墳だが、4世紀中頃に和歌山の地に景行天皇の墓である渋谷向山古墳が造営された後、大王墓が奈良の地に本格移動し最初に造営されたのが陵山古墳としてみよう

陵山古墳は4世紀後半築造とされ、景行天皇の墓である渋谷向山古墳の後継と目される(大王(天皇)の系譜から考えると成務天皇の墓?となるのだが…)

宮内庁では陵山古墳を垂仁天皇の後の日葉酢媛命の墓と治定している(基本的に後の墓が大王墓として造営される可能性は極めて薄いと思われる…)

神功皇后を除いて…そういう意味では、神功皇后は遠征先で亡くなった仲哀天皇の後を継いで活躍した、希代の女傑であつたということなのかもしれない)

陵山古墳の後継の大王墓は4世紀後半築造の前方後円墳とされる(古墳時代前期末ころともされるようだ)石塚山古墳となりそう

すると石塚山古墳は仲哀天皇の墓なのか?(宮内庁は石塚山古墳は成務天皇の墓と治定しているが…)

最後に五社神古墳であるが、4世紀末頃築造の前方後円墳とされる

すると神功皇后の墓なのか?(宮内庁も五社神古墳は神功皇后の墓と治定している)

その頃、河内の古市古墳群では最初の大王墓と思われる津堂城山古墳が造営されている(大王墓が奈良の地から河内の地に移動する瞬間と思われる!)

なお、以下の別稿を参照してください!

- ・ 行燈山古墳(天理市)